大竹野トンネル貫通式

早期供用目指し祝う

鹿屋土木

県鹿屋土木事務所が主要地方道路鹿屋吾平佐多線で整備中の大竹野トンネル貫通式が8日、南大隅町根占横別府の現地トンネル坑内で開かれ、発注者の県をはじめ県議、町、施工業者、地権者など約150人が出席し、通り初めや祝賀会でトンネルの貫通を祝った。

同トンネルは総延長450mで15年から整備を進めてきた。施工は1工区が丸福建設・吉留建設産業・百次建設、2工区が丸福建設・山下㈱建設・山佐産業のそれぞれ特定建設工事共同企業体が施工。鹿屋吾平佐多線のバイパス(延長5㎞)となる同トンネルは、延長450mでNATM工法で1工区が214m、2工区が236mを施工した。全体供用開始予定は19年度でトンネル関連事業費を含むバイパス総事業費は約70億円となっている。

式では、発注者を代表して県鹿屋土木事務所の上小鶴博所長＝写真＝が貫通掘削のスイッチを押し貫通した。通り初めでは出席者代表が二手に分かれて貫通点でがっちり握手を交わした。関係者による樽担ぎで坑内が沸き、鏡開きを行って貫通を祝った。

式典後、上小鶴所長は「この道路が地域の産業、流通と住民の安心安全に寄与するものと考える。力強い肝属地区に役立つよう1日も早い完成を望む」と話した。

鏡開きで貫通を祝う関係者＝南大隅町の現地で

県建設業協会 指宿支部安全管理研修会

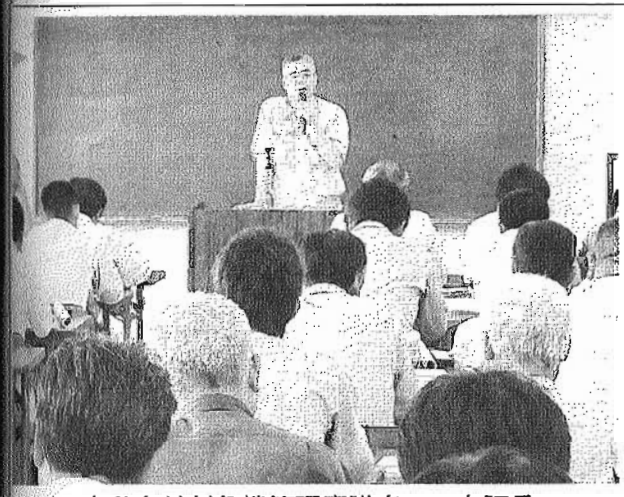
安全意識の高揚図る

県建設業協会指宿支部（福永昭一支部長）は8日、指宿市の指宿建設業会館で18年度安全管理研修会を開き、安全講話や支部会員らの体験発表などを行い、労働災害・交通災害の撲滅に向けた安全意識の高揚を図った。

冒頭、福永支部長が「交通・労働災害に対する意識が欠落しては、地域住民からの建設業への信用を失墜することになりかねない。そのためにも、研修会で学んだことを各自がしっかりと認識し、各々にとってきょうの研修会が意義あるものとしてほしい」と挨拶。

続いて、県指宿土木事務所の御供田勉技術主幹兼係長が土木工事に関する安全教育と題して、安全施工サイクル運動の順守、施工体制台帳の詳細（記載）意識することの必要性などについて説明。また、鹿児島労働基準監督署の福元英幸安全衛生課長、神村健一郎安全衛生専門官らが安全衛生週間にちなんで、17年度の県内各地区や業種ごとの労働災害発生状況を報告し、「安全は、自らの手によって守るという意識をしっかりと持ってほしい」と訴えた。また、南記念クリニックの南田美子運動指導士が「健康の土台づくりも意識から～身体を作るお手軽体操～」と題して講演した。

また、午後からは指宿警察署の有木園芳輝交通課長と指宿消防署の堀孝行救急救命士が的確な対応や処置の有効性を訴えた。また、㈱浜村組の冨松正美氏、㈱西園組の有馬清重氏による体験発表では、全員が真剣な表情で聞いていた。



一人ひとりが危機管理意識を――と語る福永支部長＝指宿市の指宿建設業会館で

県ジオファイバー協会総会

発注機関への陳情柱に

県ジオファイバー協会（橋元力会長）は8日、鹿児島市のグリーンホテル錦生館で18年度通常総会を開き、発注機関へ陳情活動や県内コンサルへのPR活動などの新年度事業計画を決めた。

総会では、初めに橋元会長が「昨年度はジオファイバーの技術立案などコンサルへの成果が上がった。また、県としてはテクノロジー、エコロジー、リサイクルが備わっている工法は採用など検討していく意向を聞いた。ジオファイバーは、ペットボトルのリサイクル、シラスと砂混ぜた補強土工、現場での立木のチップ材を使う工法で前述のキーワードを兼ね備えている。今後も会員一丸で普及活動に努めていきましょう」と挨拶した。

続いて、橋元会長を議長に議事に入り、17年度事業・収支決算報告や18年度事業計画・収支予算案を審議し、すべて原案通り可決承認した。

新年度事業計画は、①発注機関への陳情活動②発注機関及びコンサルタントを対象とした技術研修会の実施③技術広報部会、ワーキンググループの開催④県内コンサルへのPR活動－など。

会員一丸で普及活動を――と挨拶する橋元会長＝鹿児島市のグリーンホテル錦生館で

県電気工事業工業組合研修会

埼玉県電工組が来鹿

県電気工事業工業組合（中島博夫理事長）は8日、鹿児島市の鹿児島サンロイヤルホテルで埼玉県電気工事工業組合（小澤浩二理事長）を迎えての合同研修会を開いた。

来鹿したのは、小澤埼玉電工組理事長ら役員49人。研修にあたって、中島理事長は「埼玉は組合員数も多く、業界にとって先進地。この貴重な場を活用してほしい」とエールを送った。

各種活動にさまざまな質問が寄せられた研修会＝鹿児島市の鹿児島サンロイヤルホテルで

後の事業活動に生かしていきたい」と挨拶した。

県工組の組織や事業内容等を説明すると、出席者からボランティア活動に関する質問が多数寄せられた。特に、今年度スタートした「こども110番」や県と結んだ「災害時の住宅応急修理に関する協定」、恒例の「高齢者住宅無料点検」への関心は高く、「〝地域との一体感〟が感じられるすばらしい取り組み」と評価した。

県工組の約2倍となる組合員（1531社）で構成する埼玉電工組では、業界が推進する「提案型技術営業」の拠点として、4月にオール電化住宅普及センターを開設。共同購買事業や各種キャンペーンなど幅広い事業を展開している。上部組織の全日本電気工事業工業組合連合会（全電工連）の副会長も務める小澤理事長は、「優れた指導力のもと、今後も地域に根ざした活動に努めてほしい」とエールを送った。

ボランティア活動を評価

山藤建設・錦幸緑化建設・井上建設

初の合同奉仕作業

㈱山藤建設（岩下吉則社長）、錦幸緑化建設㈱（愛下一社長）、㈱井上建設（井上勝巳社長）は8日、加治木町の網掛川土手の草払い等の奉仕作業を3社合同で実施し、関係者に喜ばれた。なお、合同奉仕作業はきょう9日も実施する。

同日は、加治木町の現地に集まった参加者25人を前に岩下社長が「最近、児童の痛ましい事件が続発、きょう作業する場所も通学路ですが、雑草が生い茂っています。危険予防のためにもよろしくお願いします」と挨拶。愛下社長、井上社長も「初めての合同奉仕作業になりますので、事故など十分気を付けて作業してください」と挨拶、作業内容や注意事項等を説明した後、早速作業を開始した。

作業は、加治木バイパスから下流へ約1㎞を対象に除草作業を中心に実施。参加者は各社持参した草刈り機やフォークなどを使い、大人の腰ほどに伸びた雑草を刈り取り、ダンプに回収した。

作業に精を出す参加者＝加治木町の現地で

お手軽で便利な
購読料のお支払いは
自動振替で
鹿児島建設新聞
099-227-5100へ